

P1	「湖の船が結ぶ絆」展
P2	宿場町大津の機構改革
P3	ミニ企画展 「大津港の船」
P4	ミニ企画展 「シベリア抑留の記録」

「湖の船が結ぶ絆」展

に協力しています

この夏、滋賀県立安土城考古博物館と長浜城歴史博物館を中心に県内の博物館が連携して、「湖の船が結ぶ絆」をテーマに、琵琶湖の船の歴史に関する展覧会が開催されます。当館もこの企画に協力する形で、スタンプラリーのポイントの一つになるほか、会期が若干ずれますが、ミニ企画展「大津港の船」などを開催します。

この夏、琵琶湖をめぐりながら、船を通して近江で展開した歴史を考えてみるのも楽しいのではないのでしょうか。当館の展示は3ページで紹介しています。

島めぐり・八景めぐりポスター 昭和10年頃 琵琶湖汽船蔵 ▶
竹生島をはじめ、琵琶湖を一周する島めぐりは、琵琶湖観光の定番でした。昭和初期、琵琶湖観光を担った観光船は、京阪丸とみどり丸です。このポスターでは、京阪丸を大きく描き、高速で快適な琵琶湖観光をアピールしています。



●湖の船が結ぶ絆で連携する博物館の展示

滋賀県立安土城考古博物館「天智天皇・信長 そして うみのこ」

会期：7月14日(土)～9月2日(日)
〒521-1311 近江八幡市安土町下豊浦6678 TEL0748-46-2424

長浜城歴史博物館「鉄道連絡船と汽船の時代」

会期：7月14日(土)～9月2日(日)
〒526-0065 長浜市公園町10番10号 TEL0749-63-4611

大津市歴史博物館 ミニ企画展「大津港の船」

会期：8月21日(火)～9月30日(日)

長浜鉄道スクエア 常設展示

〒526-0057 長浜市北船町1-41 TEL0749-63-4091

滋賀県立琵琶湖博物館 常設展示

〒525-0001 草津市下物町1091 TEL077-568-4811

北淡海・丸子船の館 常設展示

〒529-0721 長浜市西浅井町大浦582 TEL0749-89-1130

スタンプラリー 湖の船が結ぶ絆

県内博物館と琵琶湖汽船が連携して開催します。
県内9カ所に設置したスタンプのうち4カ所を集めて応募するとプレゼントが用意されています。

期間：7月14日(土)～9月9日(日)

スタンプ設置場所：大津市歴史博物館、
滋賀県立琵琶湖博物館、滋賀県立安土城考古博物館、
長浜城歴史博物館、長浜鉄道スクエア、
北淡海・丸子船の館、大津港、長浜港、今津港

問い合わせ、応募先：

滋賀県立安土城考古博物館 TEL0748-46-2424

宿場町大津の機構改革

～昔も今も「改革」は大切！～

時は享保14年（1729）、暑さも残る閏9月。大津町柘屋町組の各町代表が寄り集まって、一つの文書を作成しました。それが今回紹介する「人馬会所勤方改書印形帳」^{じんばかいしよつとめかたあらためかきいんぎょうちよう}です【写真1】。

人馬会所とは、旅行者に人足や馬の提供をおこなうため大津宿に設置された施設のひとつで、その維持・管理の費用は、大津町各町で共同支出することになっていました。ところが、その出費が嵩み、宿場の困窮を招いたため、享保14年に改革が実施されました。この文書は、その改革の内容を31箇条にわたって書き上げたものです。末尾には、柘屋町組の各町年寄全員の捺印があり、改革の内容について確認しあったことがわかります【写真2】。

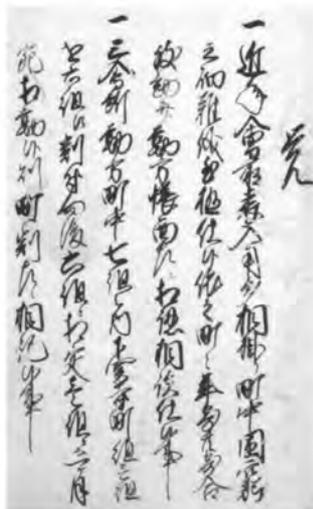
ここで、その内容について、いくつかの条目から紹介しましょう。第1条では、「会所の入用が多くかり、町中が困窮して難儀至極だ」として、以後の各町年寄の寄合による会所運営について取り決めたこと、第2条では、大津町七組のうち、大谷や追分を含んだ下関寺町組を他の六組に割り付けて、月毎に順番で管理することを定めています【写真3】。また、第5条では、差し出す人足について、過不足のないようにと、余計な出費を抑えることが定められています。

さらに、改革の内容は、経費削減以外にもおよびます。たとえば、第28条では、会所へ着ていく服装まで規定しています。もし、私用で立ち寄ることがあって略衣になるときは、その訳をきちんと報告するようにもっています。

このように、「人馬会所勤方改書印形帳」は、維持・運営の再建だけでなく、人馬会所をめぐる日常生活や年中行事まで規定したものでした。

江戸時代の大津町は、幕府の東海道整備によって宿場町として発展しましたが、その裏側には、大津町人の絶え間ない維持・運営の歴史があったのです。

こうした江戸時代の古文書は、一見地味かもしれませんが、約300年前の大津町のあくなき努力の歴史を知るための重要な資料なのです。（高橋大樹）



▲写真3



▲写真1



▲写真2

【※当資料は、当館常設展示1階のテーマ展示「大津百町」で実物をご覧ください。】

第99回 ミニ企画展 「大津港の船」

会期 ■ 8月21日(火)→9月30日(日)

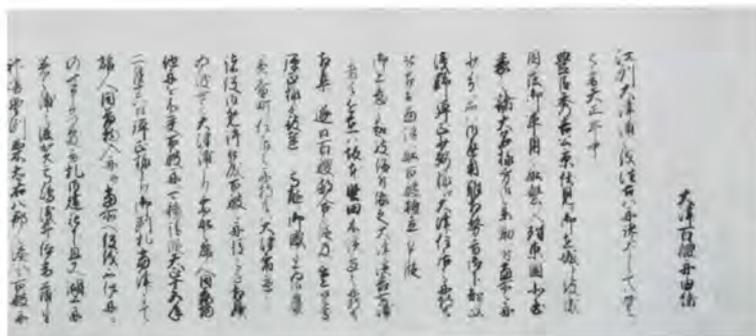
場所 ■ 常設展示内ミニ企画展コーナー

天正14年(1586)頃、豊臣秀吉の命を受けた浅野長吉は、坂本城を廃し、大津に城を移します。この大津城の築城に伴い、新たに大津町が形成されましたが、その核を担ったのが「大津百艘船」の創設です。

「大津百艘船由緒」によると、豊臣秀吉が伏見城を築城し拠点としたことで、東国や北国の諸大名が参勤するにあたり大津に多数の船を常備しておく必要が生じました。このため、秀吉は浅野長吉に船百艘を常備するよう命じます。そこで浅野は、従来の船に加えて坂本、堅田、木浜の船持ちを集め、百艘を調べたのが大津百艘船のはじまり、とされています。それに加え、天正15年、浅野長吉は大津百艘船に大きな特権を与える高札を出します。5条からなる定の第1条は「当津荷物・諸旅人、いりふねにのせましき事」とあり、大津の荷物や旅人は、他所の湊から大津に来た船に積ませてはならない、というもので、この特権は江戸時代を通じて大津に認められていました。こうして、大津は琵琶湖における南の玄関口としての地位を確固たるものにします。

明治時代になっても、湖上船運の重要性は変わらず、その上で船の近代化が急速に進みます。明治2年(1869)蒸気船「一番丸」が進水し、その後次々と蒸気船が就航しました。明治18年(1885)には、大津と長浜を結ぶわが国初の鉄道連絡船も誕生します。しかし明治22年、東海道線が全通すると、その役割を終え、その後、琵琶湖は、観光をメインに、様々な企画で人々を迎える観光船が就航する湖に移り変わります。

この展示では、大津港の移り変わりから、こうした琵琶湖の歴史の一端を紹介します。



◀大津百艘船由緒 江戸時代 個人蔵

大津百艘船仲間に伝えられた由緒書。百艘船の成立から、大津湊に出された古文書や高札の写し等、百艘船の由緒を明らかにする記録がまとめられています。



◀琵琶湖眺望真景図 江戸時代 大津市歴史博物館蔵

幕末の大津湊沖を描いています。大津に着岸するたくさんの丸子船が陸揚げの準備をしている様子うかがわれます。このほか水田の肥料となる藻を採る船や人を運ぶ船も見られ、湖上がにぎわっていた様子が見て取れます。

シベリア抑留の記録

7月10日(火)～8月19日(日)

休館日 月曜日 但し7月16日は開館し、翌17日が休館

第二次世界大戦後にソ連軍の捕虜となり、多くの方々が極寒の地シベリアに抑留されました。厚生労働省援護局の調査では、抑留者は約57万5千人、そのうち抑留中に死亡された方は約5万5千人となっています。ただ、死亡者数についてはまだまだ流動的です。今回のミニ企画展では、大津市内に在住されている抑留体験者の方や、その御遺族の方が、現在まで大切に残してこられた、シベリアを始めとする戦前・戦後の資料を展示することで、あらためて平和の大切さについて考えたいと思います。

主な展示資料 1、シベリア抑留中の体験が綴られた詩歌の巻物

巻物には50余首の詩歌や体験記とともに、60余名の戦友や、抑留中に知り合った方々の住所と名前が記されています。

2、シベリア捕虜収容所の模型

抑留当時を思い出して造られたお手間いりの模型。過酷な生活を送られた収容所の建物や周囲に建てられた監視所、荷物の運搬に使った荷車などが再現されています。

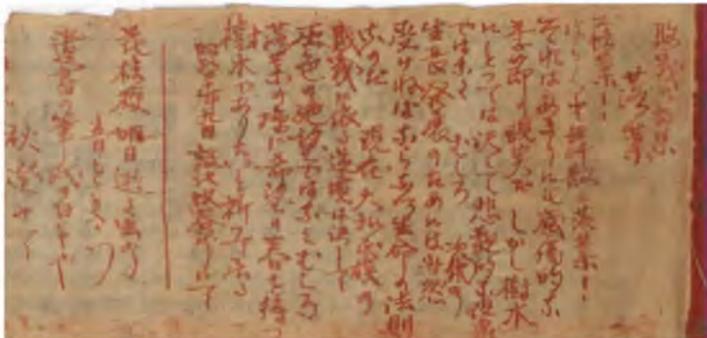
3、収容所から家族に出したハガキ

往復はがきになっていて、宛名面には「俘虜用郵便葉書」と記されています。内地からの返事は届かなかったそうです。

4、肌身離さず持っておられた母親の写真

従軍された満州からシベリアまで、ずっと大切に持っておられたとのことで、シワクちゃになっています。

その他、収容所で使っていた飯盒や水筒、手づくりの木製匙、また満州従軍中に家族に宛てた愛情あふれる軍事郵便、内地で受けた徴兵検査のときの記念写真など、シベリアに抑留されるまでの、一兵士の足跡もたどります。



▲写真1

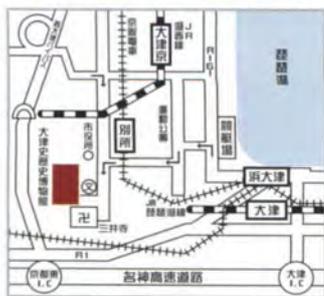


▲写真2



▲写真3

ご利用案内



交通機関

- ・京阪電鉄石坂線別所駅 徒歩5分
- ・JR 大津駅 徒歩 15分
- ・JR 大津駅、バス10分別所下車

駐車場 約70台(無料)

常設展示観覧料

区分	個人	団体(10名以上)
一般	210円	160円
高校生・大学生	150円	120円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆大津市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方は無料。
- ◆土曜日限り、小・中学生は無料。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

開館時間

午前9時～午後5時(展示室への入場は午後4時30分まで)

休館日

月曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館)
 祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)
 年末年始(12月27日～1月5日)
 その他、業務の都合により休館する場合があります。

歴博カードのご案内

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。(1年間有効)

料金	一般	高大学	小中学
	2,000円	1,500円	1,000円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号
 TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

大津歴博だより No.87 平成24年7月10日